

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-501 改 6
提出年月日	平成 30 年 9 月 28 日

日本原子力発電株式会社
東海第二発電所 工事計画審査資料
放射性廃棄物の廃棄施設
気体，液体又は固体廃棄物処理設備
固体廃棄物処理系
(固体廃棄物処理系)

(本文)

放射性廃棄物の廃棄施設

2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備

2.3 固体廃棄物処理系

2.3.1 固体廃棄物処理系

(1) 熱交換器

- a. 蒸気加熱器
- b. タンクベント冷却器

(2) ポンプ

- a. 廃液中和スラッジ受ポンプ
- b. ミキサー洗浄ポンプ

(4) 容器

- a. 廃液フィルタ逆洗水受タンク
- b. 床ドレンフィルタ逆洗水受タンク
- c. 原子炉冷却材浄化系フィルタ脱塩器逆洗水受タンク
- d. 廃液スラッジ貯蔵タンク
- e. 床ドレンスラッジ貯蔵タンク
- f. 濃縮廃液貯蔵タンク
- g. 使用済樹脂貯蔵タンク
- h. 廃液中和スラッジ受タンク
- i. 濃縮廃液計量タンク
- j. ミキサー洗浄タンクB
- k. バッチタンク
- l. スラッジ計量ホッパー
- m. チャージホッパー
- n. 苛性溶液タンク
- o. セメントサイロ
- p. セメント計量ホッパー

(10) 主配管

- (14) 減容・固化設備に係る焼却装置，溶融装置，圧縮装置，アスファルト固化装置，セメント固化装置，ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち（１）から（１３）までに掲げるもの以外の主要機器

- a. 減容機
- b. 遠心分離機
- c. スラッジコンベヤー
- d. アウトドラムミキサー
- e. セメントコンベヤー

- f. ドラムコンベヤー
- g. ミキサー洗浄タンクA

2.3 固体廃棄物処理系

2.3.1 固体廃棄物処理系

- (1) 熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料及び個数

				変 更 前	変更後
名 称				蒸気加熱器	変更なし
種 類	—			たて置円筒形 ^{*1}	
容 量（設計熱交換量） ^{*2}		kJ/回分/個		<input type="text"/> (2.56×10 ⁵ ^{*3, *4})	
管側	最 高 使 用 圧 力	MPa		0.96 ^{*3}	
	最 高 使 用 温 度	℃		183	
胴側	最 高 使 用 圧 力	MPa		0.96 ^{*3}	
	最 高 使 用 温 度	℃		183	
伝 熱 面 積		m ² /個		<input type="text"/> (2.58 ^{*4})	
主 要 寸 法	管側	伝 熱 管 外 径	mm	34.0 ^{*4, *5}	
		伝 熱 管 厚 さ	mm	<input type="text"/> (3.4 ^{*4, *5})	
		蒸気入口管台外径	mm	34.0 ^{*4, *5}	
		蒸気入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (3.4 ^{*4, *5})	
	胴側	胴 内 径 ^{*6}	mm	950 ^{*4}	
		胴 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (10 ^{*4, *7})	
		鏡 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (10 ^{*4, *7})	
		鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	950 ^{*4, *5} (鏡板長径)	
			mm	237.5 ^{*4, *5} (鏡板短径の2分の1)	
		水 入 口 管 台 外 径	mm	60.5 ^{*4, *5}	
		水 入 口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (5.5 ^{*4, *5})	
		水 出 口 管 台 外 径	mm	60.5 ^{*4, *5}	
		水 出 口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (5.5 ^{*4, *5})	
		フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	<input type="text"/> (79 ^{*4, *5})	
		高 さ	mm	1643 ^{*4}	
材 料	管側	伝 熱 管	—	SUS304TP	
	胴側	胴 板 ^{*8}	—	SM41A	
		鏡 板	—	SM41A ^{*5}	
	フ ラ ン ジ		—	S25C ^{*5}	
個 数		—		1	

- 注記
- *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形コイル式」と記載。
 - *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「伝熱負荷」と記載。
 - *3：S I 単位に換算したもの。
 - *4：公称値を示す。
 - *5：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-2-6 蒸気加熱器」による。
 - *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
 - *7：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-2-6 蒸気加熱器」による。
 - *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
 - *9：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

			変 更 前	変 更 後
名 称			タンクベント冷却器	変更なし
種 類		—	たて置直管式*1	
容 量（設計熱交換量）*2		kW/個	<input type="text"/> (69.3*3, *4)	
管 側	最 高 使 用 圧 力	kPa	(負圧) 5	
	最 高 使 用 温 度	℃	65	
胴 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	0.86	
	最 高 使 用 温 度	℃	65	
伝 熱 面 積		m ² /個	<input type="text"/> (16.57*3)	
主 要 寸 法	管 側	胴 内 径*5	mm	350*3
		胴 板 厚 さ*6	mm	<input type="text"/> (10*3)
		鏡 板 厚 さ*8	mm	<input type="text"/> (10*3)
		鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	350.0*3, *7 (鏡板長径)
			mm	87.5*3, *7 (鏡板短径の2分の1)
		ガス入口管台外径	mm	216.3*3, *9
		ガス入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (8.2*3, *9)
		ガス出口管台外径	mm	267.4*3, *9
		ガス出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (15.1*3, *9)

(続き)

				変 更 前	変 更 後
主 要 寸 法	胴 側	胴 内 径*10	mm	350*3	変更なし
		胴 板 厚 さ*11	mm	<div></div> (10*3)	
		水入口管台外径	mm	60.5*3, *9	
		水入口管台厚さ	mm	<div></div> (8.7*3, *9)	
	管 板 厚 さ		mm	<div></div> (25*3)	
	伝 熱 管 外 径		mm	25.4*3	
	伝 熱 管 厚 さ		mm	<div></div> (2.6*3)	
	フ ラ ン ジ 厚 さ		mm	<div></div> (36.0*3, *7)	
	高 さ*12		mm	3568*3	
材 料	管 側	胴 板	—	SM400A	
		鏡 板	—	SM400A	
	胴 側	胴 板	—	SM400A	
		管 板	—	S25C	
	伝 熱 管		—	SUS304TB	
	フ ラ ン ジ		—	S25C*7	
個 数		—	1		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形固定管板式」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「容量」と記載。

*3：公称値を示す。

*4：S I 単位に換算したもの。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室内径」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴部厚さ」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、平成8年9月17日付け発管業発第118号にて届け出した工事計画の添付書類「2 強度計算書」のうち、「2-1 タンクベント冷却器強度計算書」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室鏡板厚さ」と記載。

*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体内径」と記載。

*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体厚さ」と記載。

*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

- (2) ポンプの名称、種類、容量、揚程又は吐出圧力（真空ポンプにあっては到達真空度）、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数並びに原動機の種類、出力及び個数

				変 更 前	変 更 後	
名 称				廃液中和スラッジ受ポンプ		
ポンプ	種 類	—		うず巻形*1		
	容 量	m³/h/個		<div></div>	(11.9*3)	
	揚 程*4	m		<div></div>	(22*3)	
	最 高 使 用 圧 力		MPa	0.33*5		
	最 高 使 用 温 度		℃	65*5		
	主 要 寸 法	吸 込 口 径		mm	50*3, *6	
		吐 出 口 径		mm	50*3, *6	
		た て		mm	110*3, *6	
		横		mm	485*3, *6	
		高 さ		mm	370*3, *6	
	材 料	ケ ー シ ン グ*7		—	SCS14	
個 数		—	1			
原 動 機	種 類	—		誘導電動機*8		
	出 力	kW/個		3.7		
	個 数	—		1		

- 注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻ポンプ」と記載。
- *2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *3：公称値を示す。
- *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。
- *5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-2-2 液体固体廃棄物処理施設の耐震性についての計算書」のうち、「Ⅲ-2-2-1 設計条件」による。
- *6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付図面「第3-34図 ポンプ外形図 組立断面図（横軸型ポンプその10）」による。
- *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。
- *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。
- *9：本設備は、手続対象外である。

				変 更 前		変 更 後			
名 称				ミキサー洗浄ポンプ		撤去*9			
ポンプ	種 類		—		うず巻形*1				
	容 量		m³/h/個		<div></div> (3.6*3)				
	揚 程*4		m		<div></div> (210*3)				
	最 高 使 用 圧 力		MPa		2.74*5				
	最 高 使 用 温 度		℃		65*5				
	主 要 寸 法	吸 込 口 径		mm				40*3, *6	
		吐 出 口 径		mm				40*3, *6	
		た て		mm				170*3, *6	
		横		mm				1135*3, *6	
		高 さ		mm				470*3, *6	
材 料	ケ ー シ ン グ*7		—		FC25				
個 数		—		1					
原 動 機	種 類		—		誘導電動機*8				
	出 力		kW/個		15				
	個 数		—		1				

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸多段うず巻ポンプ」と記載。

*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*3：公称値を示す。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全揚程」と記載。

*5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-2-2 液体固体廃棄物処理施設の耐震性についての計算書」のうち、「Ⅲ-2-2-1 設計条件」による。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-36図 ポンプ外形図 組立断面図（横軸型ポンプその12）」による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴体」と記載。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

*9：本設備は、手続対象外である。

- (4) 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃液フィルタ逆洗水受タンク	
種 類	—		たて置円筒形 ^{*1}	
容 量	m ³ /個		<input type="text"/> (17.0 ^{*2})	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃		80	
主 要 寸 法	胴 内 径 ^{*4}	mm	2000 ^{*2}	
	胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	<input type="text"/> (6 ^{*2})	
	鏡 板 厚 さ ^{*7}	mm	<input type="text"/> (6 ^{*2})	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	2000 ^{*2, *8} (鏡板中央部内半径)	
			200 ^{*2, *8} (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4.5 ^{*2, *9}	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径	mm	60.5 ^{*2, *6}	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (3.9 ^{*2, *6})	
	高 さ	mm	6798.5 ^{*2, *10}	
材 料	胴 板 ^{*11}	—	SM41A ^{*12}	
	鏡 板	—	SM41A ^{*12}	
個 数	—		2	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	—	

変更なし

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-2-5 廃液フィルタ逆洗水受タンク」による。

- *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
- *8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年4月25日付け建建発第14号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-5 廃液フィルタ逆洗水受タンク」による。
- *9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-16図 廃液フィルタ逆洗水受タンク構造図」による。
- *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「6400」と記載。
記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-16図 廃液フィルタ逆洗水受タンク構造図」による。
- *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			床ドレンフィルタ 逆洗水受タンク	変更なし
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	m ³ /個		<input type="text"/> (17.0*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		80	
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	2000*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	鏡 板 厚 さ*7	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	2000*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			200*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 厚 さ	mm	4.5*2, *8	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径	mm	60.5*2, *6	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (3.9*2, *6)	
	高 さ	mm	6798.5*2, *9	
材 料	胴 板*10	—	SM41A*11	
	鏡 板	—	SM41A*11	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日
付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-17図 床ドレンフィルタ
逆洗水受タンク構造図」による。

- *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「6400」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-17図 床ドレンフィルタ逆洗水受タンク構造図」による。
- *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変 更 前	変更後
名 称 ^{*1}			原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水受タンク ^{*11}	変更なし
種 類	—		たて置円筒形 ^{*2}	
容 量	m ³ /個		<input type="text"/> (25 ^{*3})	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 ^{*4}	
最 高 使 用 温 度	℃		94	
主 要 寸 法	胴 内 径 ^{*5}	mm	2500 ^{*3}	
	胴 板 厚 さ ^{*6}	mm	<input type="text"/> (9 ^{*3})	
	鏡 板 厚 さ ^{*8}	mm	<input type="text"/> (9 ^{*3})	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	2500.0 ^{*3, *7} (鏡板中央部内半径)	
			250.0 ^{*3, *7} (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 厚 さ	mm	9 ^{*3, *9}	
	ドレン出口管台外径	mm	80 ^{*3, *9}	
	ドレン出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (9.5 ^{*3, *7})	
材 料	高 さ	mm	5980 ^{*3, *10}	
	胴 板	—	SUS304L	
	鏡 板	—	SUS304L	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。原子炉冷却材浄化系から固体廃棄物処理系に整理。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒たて型」と記載。

*3：公称値を示す。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年8月30日付け建建発第98号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2-4 フィルタ脱塩器逆洗水受タンクの規格計算書」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には、スカート部から平板上端部までの高さである「6590」と記載。記載内容は、設計図書による。

*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「フィルタ脱塩器逆洗水受タンク」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃液スラッジ貯蔵タンク	変更なし
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	m ³ /個		<input type="text"/> (161*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	5200*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/> (10*2)	
	鏡 板 厚 さ*7	mm	<input type="text"/> (12*2)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	5200*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			520*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4.5*2, *8	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径	mm	48.6*2, *6	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (5.1*2, *6)	
	入 口 管 台 外 径	mm	114.3*2, *6	
	入 口 管 台 厚 さ	mm	6.0*2, *6	
	高 さ	mm	8825.5*2, *9	
材 料	胴 板*10	—	SM41A*11	
	鏡 板	—	SM41A*11	
個 数	—		2	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

- *8 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-18図 廃液スラッジ貯蔵タンク構造図」による。
- *9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7800」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-18図 廃液スラッジ貯蔵タンク構造図」による。
- *10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			床ドレンスラッジ貯蔵タンク	
種 類	—		たて置円筒形 ^{*1}	
容 量	m ³ /個		<input type="text"/> (110 ^{*2})	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径 ^{*4}	mm	4400 ^{*2}	
	胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	<input type="text"/> (8 ^{*2})	
	鏡 板 厚 さ ^{*7}	mm	<input type="text"/> (10 ^{*2})	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	4400 ^{*2, *8} (鏡板中央部内半径)	
			440 ^{*2, *8} (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4.5 ^{*2, *8}	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径	mm	48.6 ^{*2, *6}	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (5.1 ^{*2, *6})	
	入 口 管 台 外 径	mm	48.6 ^{*2, *6}	
	入 口 管 台 厚 さ	mm	3.7 ^{*2, *6}	
材 料	高 さ	mm	8268.5 ^{*2, *9}	
	胴 板 ^{*10}	—	SM41A ^{*11}	
	鏡 板	—	SM41A ^{*11}	
個 数		—	1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

- *8 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-19図 床ドレンスラッジ貯蔵タンク構造図」による。
- *9 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7400」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-19図 床ドレンスラッジ貯蔵タンク構造図」による。
- *10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			濃縮廃液貯蔵タンク	
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	m ³ /個		<div></div> (94.6*2)	
最 高 使 用 圧 力		MPa	静水頭*3	
最 高 使 用 温 度		℃	120	
主 要 寸 法	胴 内 径*4		mm	4000*2
	胴 板 厚 さ*5		mm	<div></div> (18*2)
	鏡 板 厚 さ*7		mm	<div></div> (21*2)
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法		mm	4000*2, *6 (鏡板中央部内半径)
				400*2, *6 (鏡板隅の丸み半径)
	平 板 (屋 根) 厚 さ		mm	9*2, *8
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径		mm	89.1*2, *9
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ		mm	<div></div> (5.5*2, *9)
	入 口 管 台 外 径		mm	60.5*2, *10
	入 口 管 台 厚 さ		mm	3.9*2, *10
	高 さ		mm	8606*2, *11
材 料	胴 板*12		—	SM41A*13
	鏡 板		—	SM41A*13
個 数		—	3	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-7 濃縮廃液貯蔵タンク」による。

- *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
- *8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-21図 濃縮廃液貯蔵タンク構造図」による。
- *9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-7 濃縮廃液貯蔵タンク」による。
- *10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7800」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-21図 濃縮廃液貯蔵タンク構造図」による。
- *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			使用済樹脂貯蔵タンク	変更なし
種 類	—		たて置円筒形 ^{*1}	
容 量	m ³ /個		<input type="text"/> (132.5 ^{*2})	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径 ^{*4}	mm	4800 ^{*2}	
	胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	<input type="text"/> (8 ^{*2})	
	鏡 板 厚 さ ^{*7}	mm	<input type="text"/> (12 ^{*2})	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	4800 ^{*2, *8} (鏡板中央部内半径)	
			480 ^{*2, *8} (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4 ^{*2, *9}	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 外 径	mm	48.6 ^{*2, *6}	
	出 口 及 び ド レ ン 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (3.7 ^{*2, *6})	
	高 さ	mm	8547 ^{*2, *10}	
材 料	胴 板 ^{*11}	—	SUS304	
	鏡 板	—	SUS304	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-8 使用済樹脂貯蔵タンク」による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

- *8 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年4月25日付け建建発第14号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-8 使用済樹脂貯蔵タンク」による。
- *9 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-24図 使用済樹脂貯蔵タンク構造図」による。
- *10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7600」と記載。
記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-24図 使用済樹脂貯蔵タンク構造図」による。
- *11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃液中和スラッジ受タンク	撤去
種 類	—		たて置円筒形 ^{*1}	
容 量	³ /個		<input type="text"/> (3.8 ^{*2})	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径 ^{*4}	mm	1600 ^{*2}	
	胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	<input type="text"/> (6 ^{*2})	
	鏡 板 厚 さ ^{*7}	mm	<input type="text"/> (8 ^{*2})	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	1600 ^{*2, *8} (鏡板中央部内半径)	
			160 ^{*2, *8} (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4 ^{*2, *9}	
	高 さ	mm	2422 ^{*2, *10}	
材 料	胴 板 ^{*11}	—	SUS304	
	鏡 板	—	SUS304	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-6 廃液中和スラッジ受タンク」による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年4月25日付け建建発第14号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-6 廃液中和スラッジ受タンク」による。

- *9 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-20図 廃液中和スラッジ受タンク構造図」による。
- *10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「2100」と記載。
記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-20図 廃液中和スラッジ受タンク構造図」による。
- *11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			濃縮廃液計量タンク	撤去
種 類	—		たて置円筒形 ^{*1}	
容 量	³ /個		<input type="text"/> (0.32 ^{*2})	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃		120	
主 要 寸 法	胴 内 径 ^{*4}	mm	700 ^{*2}	
	胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	<input type="text"/> (5 ^{*2})	
	鏡 板 厚 さ ^{*7}	mm	<input type="text"/> (5 ^{*2})	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	700 ^{*2, *8} (鏡板中央部内半径)	
			70 ^{*2, *8} (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4 ^{*2, *8}	
	出 口 管 台 外 径	mm	48.6 ^{*2, *6}	
	出 口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (3.7 ^{*2, *6})	
	入 口 管 台 外 径	mm	48.6 ^{*2, *6}	
	入 口 管 台 厚 さ	mm	3.7 ^{*2, *6}	
	高 さ	mm	1096.5 ^{*2, *9}	
材 料	胴 板 ^{*10}	—	SUS304	
	鏡 板	—	SUS304	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日
付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-22図 濃縮廃液計量タンク構造図」による。

- *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「950」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-22図 濃縮廃液計量タンク構造図」による。
- *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			ミキサー洗浄タンク B	
種 類	—		たて置角形*1	
容 量	m ³ /個		<div></div> (0.6*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	た て	*4	mm	912*2
	横	*5	mm	1812*2
	胴 板 厚 さ	*6	mm	<div></div> (6*2)
	底 板 厚 さ	*6	mm	<div></div> (6*2)
	平 板 (屋 根) 厚 さ		mm	9*2, *7
	高 さ		mm	565*2
材 料	胴 板	*8	—	SM41A
	底 板	*8	—	SM41A
個 数		—	1	
漏 え い 防 止 の ため の 制 御 方 法		—	—	

撤去

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「角形（底置）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「巾」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			バッチタンク	撤去
種 類	—		たて置角形 ^{*1}	
容 積	3/個		<input type="text"/> (0.21 ^{*2} , ^{*3})	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 ^{*4}	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	た て	mm	580 ^{*2}	
	横	mm	580 ^{*2}	
	胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	<input type="text"/> (6 ^{*2})	
	底 板 厚 さ ^{*5}	mm	<input type="text"/> (6 ^{*2})	
	平 板 (屋 根) 厚 さ ^{*5}	mm	6 ^{*2}	
	高 さ	mm	900 ^{*2}	
材 料	胴 板 ^{*7}	—	SM41A	
	底 板 ^{*7}	—	SM41A	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「角形」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2100」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			スラッジ計量ホッパー	撤去
種 類	—	—	たて置円すい形 ^{*1}	
容 量	³ /個	—	<input type="text"/> (0.3 ^{*2})	
最 高 使 用 圧 力	MPa	—	静水頭 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃	—	65	
主 要 寸 法	胴 内 径 ^{*4}	mm	850 ^{*2}	
	胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	<input type="text"/> (5 ^{*2})	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	5 ^{*2, *7}	
	高 さ	mm	1400 ^{*2}	
材 料	胴 板 ^{*8}	—	SUS304	
個 数	—	—	1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—	—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円スイ形」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-21図 スラッジ計量ホッパー構造図 (D506)」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			チャージホッパー	撤去
種 類	—		四角すいたて形 ^{*1}	
容 量	m ³ /個		<input type="text"/> (0.5 ^{*2})	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	た て (内 寸 法) ^{*4}	mm	1054 ^{*2}	
	横 (内 寸 法) ^{*5}	mm	714 ^{*2}	
	胴 板 厚 さ ^{*6}	mm	<input type="text"/> (8 ^{*2})	
	高 さ	mm	2000 ^{*2}	
材 料	胴 板 ^{*8}	—	SUS304	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「四角スイ縦形」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「縦」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-18図 アウトドラムミキサー構造図（その2）（チャージホッパー構造図）」による。

			変 更 前	変 更 後
名 称			苛性溶液タンク	撤去
種 類	—		たて置円筒形 ^{*1}	
容 量	³ /個		<input type="text"/> (0.19 ^{*2})	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径 ^{*4}	mm	600 ^{*2}	
	胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	<input type="text"/> (6 ^{*2})	
	鏡 板 厚 さ ^{*7}	mm	<input type="text"/> (6 ^{*2})	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	600 ^{*2, *8} (鏡板中央部内半径)	
			60 ^{*2, *8} (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4.5 ^{*2, *8}	
	高 さ	mm	998 ^{*2, *9}	
材 料	胴 板 ^{*10}	—	SM41A	
	鏡 板	—	SM41A	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日
付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-23図 苛性溶液タンク構造図」による。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「870」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面
「第3-23図 苛性溶液タンク構造図」による。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			セメントサイロ	撤去
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	³ /個		 (14.5*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	2700*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	 (6*2)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	6*2, *6	
	高 さ*7	mm	4650*2, *8	
材 料	胴 板*9	—	SM41A	
個 数	—		1	
漏えい防止のための制御方法		—	—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には、サポートからセメントサイロ頂部までの高さである「6600」と記載。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届出した工事計画の添付図面「第3-14図 セメントサイロ構造図（D704）」による。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

*10：記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届出した工事計画の添付図面「第3-14図 セメントサイロ構造図（D704）」による。

			変 更 前	変 更 後
名 称			セメント計量ホッパー	撤去
種 類	—		たて置円すい形 ^{*1}	
容 量	³ /個		 (0.7 ^{*2})	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 ^{*3}	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径 ^{*4}	mm	1100 ^{*2}	
	胴 板 厚 さ ^{*5}	mm	 (6 ^{*2})	
	平板（屋根）厚さ	mm	6 ^{*2, *7}	
	高 さ	mm	1800 ^{*2}	
材 料	胴 板 ^{*8}	—	SM41A	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円スイ形」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-15図 セメント計量ホッパー構造図（D1702）」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

(10) 主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変 更 前							変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
固体廃棄物処理系	*3 廃液フィルタ逆洗水受タンク ～ 廃液フィルタ逆洗水ポンプ	1.03*1	65	60.5	3.9*2	SUS304TP	固体廃棄物処理系	変更なし					
				60.5	5.5*2	STPT42							
	*4 廃液フィルタ逆洗水ポンプ ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 合流点	1.03*1	65	48.6	5.1*2	STPT42		変更なし					
	*5 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42							
	床ドレンフィルタ逆洗水受タンク ～ 床ドレンフィルタ逆洗水ポンプ	1.03*1	65	60.5	3.9*2	SUS304TP		変更なし					
				60.5	5.5*2	STPT42							
	床ドレンフィルタ逆洗水ポンプ ～ 床ドレンスラッジ貯蔵タンク	1.07*1	65	48.6	5.1*2	STPT42		変更なし					
		1.03*1	65	48.6	5.1*2	STPT42							

(続き)

変 更 前							変 更 後															
名 称			最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 ^{*2} (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称			最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料							
固体廃棄物処理系	原子炉冷却材浄化系	^{*6} 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器 逆洗水受タンク ～ 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ	1.02	66	60.5	3.9 ^{*2}	STPT42	固体廃棄物処理系	変更なし													
		^{*6} 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ ～ 燃料プール冷却浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点	1.03	65	34.0	4.5 ^{*2}	STPT42									変更なし						
		48.6			5.1 ^{*2}	STPT42																
		60.5			5.5 ^{*2}	STPT42																
	^{*6} 燃料プール冷却浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点 ～ 使用済粉末樹脂 貯蔵タンク入口管合流点	1.03	65	60.5	5.5 ^{*2}	STPT42	変更なし															
	燃料プール冷却浄化系	^{*6} フィルタ脱塩器 逆洗水受タンク ～ フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ	0.98	94	60.5	3.9 ^{*2}								SUS304TP	変更なし							
		60.5			5.5 ^{*2}	SUS304TP																
		^{*6} フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ ～ 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点	1.03	65	34.0	4.5 ^{*2}	STPT42		変更なし													
		48.6			5.1 ^{*2}	STPT42																

(続き)

変 更 前							変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
固体廃棄物処理系	*7 使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管 ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	変更なし						
	使用済樹脂貯蔵タンク ～ 使用済樹脂ポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP							
				48.6	5.1*2	STPT42							
	*8 廃液スラッジ貯蔵タンク ～ 廃液スラッジポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP	変更なし						
				48.6	5.1*2	STPT42							
	床ドレンスラッジ貯蔵タンク ～ 床ドレンスラッジポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP	変更なし						
				48.6	5.1*2	STPT42							
	*9 使用済粉末樹脂貯蔵タンク ～ 使用済粉末樹脂ポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP	変更なし						
				48.6	5.1*2	STPT42							
	*10 使用済樹脂ポンプ ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 合流点 (次頁へ続く)	1.96*1	65	34.0*6	4.5*2, *6	STPT410*6	変更なし	変更なし					
				34.0	4.5*2	STPT42							
		1.03*1	65	34.0	4.5*2	STPT42	(次頁へ続く)	－					

(続き)

変 更 前						変 更 後								
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
固体廃棄物処理系	(前頁からの続き)		1.03*1	65	34.0*6	4.5*2, *6	STPT410*6	(前頁からの続き)		変更なし				
								1.03	65	60.5	5.5*2	STPT410		
	*11 廃液スラッジポンプ ～ 使用済樹脂ポンプ吐出管合流点		1.81*1	65	34.0	4.5*2	STPT42	変更なし						
			1.96*1	65	34.0	4.5*2	STPT42							
	*12 床ドレンスラッジポンプ ～ 使用済樹脂ポンプ吐出管合流点		1.81*1	65	34.0	4.5*2	STPT42	変更なし						
			1.96*1	65	34.0	4.5*2	STPT42							
	*13 使用済粉末樹脂ポンプ ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管 合流点		1.96*1	65	34.0	4.5*2	STPT42	変更なし		—				
										変更なし				
							1.03			変更なし				
										65 60.5 5.5*2 STPT410				

(続き)

変 更 前							変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
固体廃棄物処理系	*14 濃縮廃液貯蔵タンク ～ 濃縮廃液ポンプ	1.03*1	100	89.1	4.0*2	SUS316LTP	変更なし						
			65	89.1	4.0*2	SUS316LTP							
				60.5	3.9*2	SUS316LTP							
	*15 濃縮廃液ポンプ ～ 濃縮廃液ポンプ出口管分岐部	2.01*1	65	48.6	3.7*2	SUS316LTP	変更なし						
	*15 濃縮廃液ポンプ出口管分岐部 ～ 濃縮廃液計量タンク	2.01*1	65	48.6	3.7*2	SUS316LTP							
		1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS316LTP	撤去						
	濃縮廃液計量タンク ～ アウトドラムミキサー	1.03*1	65	48.6	5.1*2	STPT42							

注記 *1：S I 単位に換算したもの。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ逆洗水ポンプ“A” “B”吸込管（廃液フィルタ逆洗水受タンク“A” “B”より廃液フィルタ逆洗水ポンプ“A” “B”まで）」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ逆洗水ポンプ“A” “B”吐出管（廃液フィルタ逆洗水ポンプ“A” “B”より廃液スラッジ貯蔵タンク入口管まで）」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液スラッジ貯蔵タンク“A” “B”入口管」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済粉末樹脂貯蔵タンク“A” “B”入口管」と記載。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液スラッジポンプ“A” “B”吸込管（廃液スラッジ貯蔵タンク“A” “B”より廃液スラッジポンプ“A” “B”まで）」と記載。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済粉末樹脂ポンプ吸込管（使用済粉末樹脂貯蔵タンク“A” “B”より使用済粉末樹脂ポンプまで）」と記載。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂ポンプ吐出管（使用済樹脂ポンプより遠心分離機“A” “B”まで）」と記載。

*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液スラッジポンプ“A” “B”吐出管（廃液スラッジポンプ“A” “B”より使用済樹脂ポンプ吐出管まで）」と記載。

*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンスラッジポンプ吐出管（床ドレンスラッジポンプより使用済樹脂ポンプ吐出管まで）」と記載。

*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済粉末樹脂ポンプ吐出管（使用済粉末樹脂ポンプより使用済樹脂ポンプ吐出管まで）」と記載。

＊14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液貯蔵タンク A, B, C より濃縮廃液ポンプ A, B, C まで」と記載。

＊15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液貯蔵ポンプ A, B, C より濃縮廃液計量タンクまで」と記載。

- (14) 減容・固化設備に係る焼却装置，溶融装置，圧縮装置，アスファルト固化装置，セメント固化装置，ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち（１）から（１３）までに掲げるもの以外の主要機器の名称，種類，容量又は処理能力，主要寸法，材料及び個数並びに原動機の種類，出力及び個数

				変 更 前	変 更 後
名 称				減容機	変更なし
本 体	種 類	—		門型油圧プレス	
	処 理 能 力*4		t/個	<input type="text"/> (10*1)	
	主 要 寸 法	た て	mm	1190*1, *2	
		横	mm	1500*1, *2	
		高 さ	mm	1860*1, *2	
	材 料	ラ ム ロ ッ ド	—	S45C*5	
		油 圧 シ リ ン ダ	—	STKM13C	
	個 数		—	1	
原 動 機	プ レ ス 用	種 類	—	誘導電動機*3	
		出 力	kW/個	1.5	
		個 数	—	1	
	換 気 用	種 類	—	誘導電動機*3	
		出 力	kW/個	0.75	
		個 数	—	1	

注記 *1：公称値を示す。

*2：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「容量」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「S45C 」と記載。

				変 更 前	変 更 後
名 称				遠心分離機	撤去
本 体	種 類	—		水平ボウル型	
	容 量	³ /h/個		<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 80px; height: 20px;"></div> (4.6 ^{*1})	
	主 要 寸 法	た て	mm	1375 ^{*1, *2}	
		横	mm	2876.3 ^{*1, *2}	
		高 さ	mm	1385 ^{*1, *2}	
	材 料	ケ ー ス		SUS304	
	個 数	—		2	
原 動 機	種 類	—		誘導電動機 ^{*3}	
	出 力	kW/個		22	
	個 数	—		2	

注記 *1：公称値を示す。

*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付図面「第3-19図 遠心分離機構造図」による。

			変 更 前	変 更 後
名 称			スラッジコンベヤー	撤去
本 体	種 類	—	ベルトドライブ型	
	容 量 ^{*1}	m ³ /h/個	 (12 ^{*2})	
	主 要 寸 法	た て	mm	
		横 ^{*4}	mm	
		高 さ	mm	
	材 料	ケ ー ス	—	
	個 数	—	1 ^{*5}	
原 動 機	種 類	—	減速機付誘導電動機 ^{*6}	
	出 力	kW/個	1.5	
	個 数	—	1	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「輸送量」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-20図 スラッジコンベヤー構造図」による。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。

*5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

				変 更 前	変 更 後
名 称				アウトドラムミキサー	撤去
本 体	種 類		—	たて置円筒形*1	
	容 量*2		m ³ /個	 (0.5*3)	
	主 要 寸 法	た て	mm	1450*3, *4	
		横	mm	2100*3, *4	
		高 さ*5	mm	1955*3	
	材 料	本 体	—	SS34又はSS41相当 	
				1	
原 動 機	ミ キ シ ン グ ス タ ー 用	種 類	—	減速機付誘導電動機*6	
		出 力	kW/個	13*7	
		個 数	—	1	
	オ イ ル ポ ン プ 用 (ゲート開閉)	種 類	—	誘導電動機*8	
		出 力	kW/個	2*7	
		個 数	—	1	
	集 中 給 油 用	種 類	—	減速機付誘導電動機*6	
		出 力	kW/個	0.25*7	
		個 数	—	2	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「処理容量」と記載。

*3：公称値を示す。

*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-17図 アウトドラムミキサー構造図（その1）」による。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

*7：S I 単位に換算したもの。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			セメントコンベヤー	撤去
本 体	種 類	—	スクリュードライブ型	
	容 量 ^{*1}	m ³ /h/個	 (10 ^{*2})	
	主 要 寸 法	外 径 ^{*3}	mm	
		全 長	mm	
	材 料	ス ク リ ュ ー	—	
		ケ ー ス	—	
	個 数	—	1	
原 動 機	種 類	—	減速機付誘導電動機 ^{*5}	
	出 力	kW/個	1.5	
	個 数	—	1	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「輸送量」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には、内径である「254.2」と記載。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-16図 セメントコンベヤー構造図」による。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-16図 セメントコンベヤー構造図」による。

				変 更 前	変 更 後
名 称				ドラムコンベヤー	撤去
本 体	種 類		—	オーバーヘッド型 パワーエンドフリータイプ	
	容 量 （ 吊 下 げ 能 力 ）		kg/キャリア	 (500* ¹)	
	主 要 寸 法	全 長* ²	m	145* ¹	
	材 料	コンベヤー レール	—	SS41	
	個 数		—	1	
原 動 機	コン ベ ヤ ー	種 類	—	誘導電動機* ³	
		出 力	kW/個	2.2	
		個 数	—	1	
	キャ ツ ピ ン グ 装 置 (ト ラ ベ ル)	種 類	—	誘導電動機* ³	
		出 力	kW/個	0.4	
		個 数	—	1	
	キャ ツ ピ ン グ 装 置 (リ フ ト)	種 類	—	誘導電動機* ³	
		出 力	kW/個	0.4	
		個 数	—	1	

注記 *1：公称値を示す。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長（パワーエンドフリーライン）」と記載。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月11日付け建建発第144号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-22図 ドラムコンベヤー構造図」による。

				変 更 前	変 更 後	
名 称				ミキサー洗浄タンク A	撤去	
本 体	種 類		—	たて置並列円筒形*1		
	容 量		m ³ /個	<div></div> (0.8*2)		
	主 要 寸 法	た て （ 内 寸 法 ） *3		mm		900*2
		横 （ 内 寸 法 ） *4		mm		1800*2
		本 体 板 厚 さ*5		mm		<div></div> (6*2)
		平 板 （ 屋 根 ） 厚 さ		mm		6*2, *6
		高 さ		mm		900*2
		材 料	本 体	—		SUS304
	個 数		—	1		
原 動 機	種 類		—	減速機付誘導電動機*7		
	出 力		kW/個	0.4		
	個 数		—	1		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「並列円筒形（四脚支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「巾」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (18/31)

				変 更 前				変 更 後				
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス		耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス
気体， 液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	熱交換器	蒸気加熱器	B－1	クラス3	－		変更なし			－	－
			タンクベント冷却器	B－1	クラス3	－		変更なし			－	－
		ポンプ	廃液中和スラッジ受ポンプ	B	Non	－		－ *2				
			ミキサー洗浄ポンプ	B	Non	－		－ *2				
		容器	廃液フィルタ逆洗水受タンク	B－1	クラス3	－		変更なし			－	－
			床ドレンフィルタ逆洗水受タンク	B－1	クラス3	－		変更なし			－	－
			原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水受タンク	B－1	クラス3	－		変更なし			－	－
			廃液スラッジ貯蔵タンク	B－1	クラス3	－		変更なし			－	－
			床ドレンスラッジ貯蔵タンク	B－1	クラス3	－		変更なし			－	－
			濃縮廃液貯蔵タンク	B－1	クラス3	－		変更なし			－	－
			使用済樹脂貯蔵タンク	B－1	クラス3	－		変更なし			－	－
			廃液中和スラッジ受タンク	B	クラス3	－		撤去			－	－
			濃縮廃液計量タンク	B	クラス3	－		撤去			－	－
			ミキサー洗浄タンク B	B	クラス3	－		撤去			－	－
			パッチタンク	B	クラス3	－		撤去			－	－

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (19/31)

			変 更 前					変 更 後				
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス		耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス
気体， 液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	容器	スラッジ計量ホッパー	B	クラス 3	—		撤去	—		—	—
			チャージホッパー	B	クラス 3	—		撤去	—		—	—
			苛性溶液タンク	C	クラス 3	—		撤去	—		—	—
			セメントサイロ	C	クラス 3	—		撤去	—		—	—
			セメント計量ホッパー	C	クラス 3	—		撤去	—		—	—
		主配管	廃液フィルタ逆洗水受タンク ～ 廃液フィルタ逆洗水ポンプ	B－1	クラス 3	—		変更なし	—		—	—
			廃液フィルタ逆洗水ポンプ ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管合流点	B－1	クラス 3	—		変更なし	—		—	—
			廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク	B－1	クラス 3	—		変更なし	—		—	—
			床ドレンフィルタ逆洗水受タンク ～ 床ドレンフィルタ逆洗水ポンプ	B－1	クラス 3	—		変更なし	—		—	—
			床ドレンフィルタ逆洗水ポンプ ～ 床ドレンスラッジ貯蔵タンク	B－1	クラス 3	—		変更なし	—		—	—
			原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水受タンク ～ 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水移送ポンプ	B－1	クラス 3	—		変更なし	—		—	—
			原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水移送ポンプ ～ 燃料プール冷却浄化系フィルタ脱塩 器逆洗水移送配管合流点	B－1	クラス 3	—		変更なし	—		—	—
			燃料プール冷却浄化系フィルタ脱塩 器逆洗水移送配管合流点 ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管合 流点	B－1	クラス 3	—		変更なし	—		—	—

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (20/31)

			変 更 前				変 更 後					
設備 区分	系統 名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス		耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス
気体， 液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	固体廃棄物処理系	主配管	フィルタ脱塩器逆洗水受タンク ～ フィルタ脱塩器逆洗水移送ポンプ	B－1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				フィルタ脱塩器逆洗水移送ポンプ ～ 原子炉冷却材浄化系フィルタ脱塩器 逆洗水移送配管合流点	B－1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管 ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク	B－1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				使用済樹脂貯蔵タンク ～ 使用済樹脂ポンプ	B－1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				廃液スラッジ貯蔵タンク ～ 廃液スラッジポンプ	B－1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				床ドレンスラッジ貯蔵タンク ～ 床ドレンスラッジポンプ	B－1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				使用済粉末樹脂貯蔵タンク ～ 使用済粉末樹脂ポンプ	B－1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				使用済樹脂ポンプ ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 合流点	B－1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	
				廃液スラッジポンプ ～ 使用済樹脂ポンプ吐出管合流点	B－1	クラス3	—	—	変更なし	—	—	

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (21/31)

			変 更 前				変 更 後					
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス		耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス
気体， 液体又は固体廃棄物処理設備	固体廃棄物処理系	主配管	床ドレンスラッジポンプ ～ 使用済樹脂ポンプ吐出管合流点	B－1	クラス3	－		変更なし	－		－	－
			使用済粉末樹脂ポンプ ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管合流点	B－1	クラス3	－		変更なし	－		－	－
			濃縮廃液貯蔵タンク ～ 濃縮廃液ポンプ	B－1	クラス3	－		変更なし	－		－	－
			濃縮廃液ポンプ ～ 濃縮廃液ポンプ出口管分岐部	B－1	クラス3	－		変更なし	－		－	－
			濃縮廃液ポンプ出口管分岐部 ～ 濃縮廃液計量タンク	B－1	クラス3	－		撤去	－		－	－
			濃縮廃液計量タンク ～ アウトドラムミキサー	B－1	クラス3	－		撤去	－		－	－
		減容・固化設備に係る焼却装置，溶融装置，圧縮装置，アスファルト固化装置，セメント固化装置，ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち(1)から(13)までに掲げるもの以外の主要機器	減容機	B－1	－	－		変更なし	－		－	－
			遠心分離機	B	－	－		撤去	－		－	－
			スラッジコンベヤー	B	－	－		撤去	－		－	－
			アウトドラムミキサー	B	－	－		撤去	－		－	－
			セメントコンベヤー	C	－	－		撤去	－		－	－
			ドラムコンベヤー	C	－	－		撤去	－		－	－
			ミキサー洗浄タンクA	B	－	－		撤去	－		－	－

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (31/31)

			変 更 前					変 更 後				
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス		耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス
堰その他の設備	－	原子炉格納容器本体外に設置される流体状の放射性廃棄物を内包する容器からの流体状の放射性廃棄物の施設外への漏えいを防止するために施設する堰	キャスク搬出入用出入口	B	－	－		変更なし			－	－
			サイトバンカトラックエリア出入口	B	－	－		変更なし			－	－
			廃棄物処理建屋機器搬出入用出入口	B	－	－		変更なし			－	－
			雑固体ドラム搬出入用出入口	B	－	－		変更なし			－	－
			ドラム搬入室出入口	B	－	－		変更なし			－	－
			廃棄物処理建屋出入口	B	－	－		変更なし			－	－
			焼却設備機器搬出入用出入口	B	－	－		変更なし			－	－
			連絡配管路出入口 （中廊下（二階））	B	－	－		撤去			－	－
			サイトバンカ非常用出入口	B	－	－		撤去			－	－
			連絡配管路出入口 （廃棄物処理棟ハッチ室（二階））	B	－	－		撤去			－	－

注記 *1：表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針、適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。

*2：撤去対象設備であるため記載を削除する。